

〔日本書紀神代〕一書曰略。中是時月夜見尊忿然イカリ作色ゾモガテ曰穢矣鄙矣寧可以口吐之物敢養我乎。

〔日本書紀神代〕一書曰略。中故兄芹命知弟折尊德欲自伏辜而弟有ヲモガテ慍色イカリ不與共言略。下

〔類聚名義抄心六〕憤ムツカル。

〔倭訓栞中編二十六〕むつがる。日本紀に憤をよめり物語に見えたる此意なり今も小兒にもは

らいふ語なり。

〔空穂物語後陸二〕もとめさはがれけるに、まいりたりしかば、いみじうむつがり給て略。下

〔今昔物語二十八〕忠輔中納言付異名語第廿二

今昔中納言藤原ノ忠輔ト云フ人有ケリ、此ノ人常ニ仰デ空ヲ見ル様ニテノミ有ケレバ、世ノ人

此レヲ仰ギ中納言トゾ付タリケル略。中一小一條ノ左大將濟時ト云ケル人、内ニ參リ給ヘリケル

ニ、此ノ右中辨ニ會ヌ、大將右中辨ノ仰タルヲ見テ、戲レテ只今天ニハ何事カ侍ルト被云ケレバ、

右中辨此ク被云テ、少攀緣發ケレバ、只今天ニハ大將ヲ犯ス星ナム現ジタルト答ケレバ略。下

〔古事談王道后宮〕三條院御時、入道殿道長參給被申請事等不許攀緣令退出給、以後敦儀親王喚

之、親王於小板敷乍立告勅喚之由、入道殿歸參云、如此之生宮達、立板敷之上、召執柄人乎云々、經任

卿說云、不歸參給、罵宮達直出給云々、

〔玉海〕治承三年十一月十五日己巳、三位中將師家超二位中將基通任、中納言師家年僅八歲、古今無

例、是博陸基房之罪科也、凡此外法皇白河與博陸同意、被亂國政之由、入道相國清盛攀緣云々、

〔類聚名義抄心六〕怨ハ於願反ハラタツ。

〔運步色葉集波〕腹立ハク。

〔書言字考節用集八〕言辭ハ敦圀ク發憤同腹立和俗所用。

〔倭訓栞中編二十〕はらだつ。遊仙窟に噴字をよめり、腹の起脹する義なり、よて俗に立腹といへ